

「第6回 関西MBA学生フォーラム (関西学院大学主催)」 レポート

KG-MBA マネジメント研究会
BS3期学年幹事
2008年度修了 (経営戦略専攻)

四ツ井 美茶子



2008年9月に関西学院大学大阪梅田キャンパスにおいて第1回イベントが開催された「関西MBA学生フォーラム」も回を重ね、今年8月30日の第6回は屋外へ飛び出し、会場は大阪府箕面市箕面森町において開催されました。開催目的は、箕面森町にあるNPO法人とどろみの森クラブ(以下、森クラブと略す)へのビジネスプランの提案です。この森クラブの問題解決をするため、関西のMBA(経営管理修士、社会人大学院生が中心)の学生・修了生の知恵を出し合うという画期的な取り組みとなりましたのでご報告いたします。

テーマとなった森クラブの現状は、里山保全などの環境維持管理業務の受託事業が主な運営資金となっていますが、今後の長期的な運営資金を安定確保するため、森クラブ自体での事業展開の拡大に向けた取り組みが必要となっています。そのため「森と住民の共存」を目的とした「持続可能な自立運営」ができる具体的なビジネスプランを求め、さらには、森クラブ・地域住民・企業・学生が共に協働しながら実行することで、地域活性化へとつながり、広く社会に貢献することを目指しています。

プレゼンには、同志社、立命館、関西学院、九州大学、北九州大、フローアには大阪大学、グロービスが参加し、各校対抗のコンペ方式にて森クラブへのビジネスプランの提案が行われました。

各校、限られた時間でのプレゼンは白熱し、収支計画を併せた具体的なプランの提案は、これまでとは一味違ったものとなりました。発表後には、同志社 林教授による講評と前回の勉強会の続きとして「地域経済の活性化・地域ブランドの開発に向けて」をご講義いただきました。また、関西学院 山本教授からは「持続可能な必要性」についてのご講義があり、大変充実したものとなりました。



夕刻からの懇親会は、森クラブの里山管理小屋でバーベキューが行われ、森クラブ、積水ハウス、各大学院生と語り合う有意義な一時が流れる中、審査発表が行われました。審査は、テーマ性、新規性、社会変革性、適切性、実現可能性、共感性の基準で実施され、その結果、関西学院が優勝しました。

関西学院のビジネスプラン「ファーム学園から始める とどろみの森 わくわく自然体験村」は、既存のグループを最大限に活用し、単独での事業やグループ間の融合により新たな価

値を創造、箕面森町で自然を核としたテーマパークを実現しようというものです。社会は安全な野菜を食べたいというニーズから、安全な野菜を作りたいというニーズへ変化しており、野菜づくりの指導を含めたファーム学園をコミュニティとした野菜の販売、飲食、お土産といったワンストップの総合施設を目指します。こうした活動を通じ、「多世代共生」「環境共生」「地域共生」の基本理念を実現した特色ある新しい街づくりを目標としたものです。

この日の関西MBA学生フォーラム交流会の様子は、9月14日の日経新聞にも掲載されました。里山保全は全国で行われていますが、箕面森町のようにMBAの学生が関わり、ビジネス思考で問題を解決しているところは少ないとのことで、今後も注目を浴びそうです。こうした活動を含め、これからも関西MBA学生フォーラムの活動、ネットワークはますますの発展が期待できそうです。

関西学院プラン作成メンバー：木村 隆文、西 由恵、出野 和子、幸松 孝太郎、本下 真次、西村 豊一、菅原 俊子、藤井順子、小野 恭義、津田 和哉、山上 忠彦



【KG-MBAマネジメント研究会とは】

現在の関西学院大学大学院 経営戦略研究科の前身である商学研究科マネジメントコース第1期修了生が1995年に立ち上げた「人的交流と継続研究」を目的とする関西学院大学公認の同窓会団体です。

関西MBA学生フォーラムは同団体のバックアップにより行われています。